



INFOS

日仏整形外科学会広報誌 **アンプオ**

会長 七川 歎次
 Président : K. SHICHIKAWA
 副会長 菅野卓郎
 Vice-Président : T. SUGANO
 副会長 小野村敏信
 Vice-Président : T. ONOMURA
 書記長
 Secrétaire général :
 小林 晶
 A. KOBAYASHI
 書記・会計
 Secrétaire et Trésorier :
 潮本喜啓
 Y. SEMOTO
 事務局:
 大阪医科大学 整形外科学教室内
 整形外科学教室内
 Tel. (0726)83-1221 代表
 (内)2364
 Fax. (0726)82-8003
 Bureau :
 Osaka medical college
 Dep. of Orthopedic Surgery
 Takatsuki, OSAKA 569 Japan

会長挨拶

第5回日仏整形外科学会を開催して

七川 歎次

第5回日仏整形外科学会を大阪の千里ライフサイエンスセンタービルのサイエンスホールで開催することができた。この度は日本リウマチ・関節外科学会終了後ということもあって、同学会会長の小川亮恵教授に種々ご便宜を計って戴いた。紙面を借りて厚く御礼申し上げたい。

今回は4つの一般演題とGoutallier教授の招待講演があったが、興味深く聞けて、討論も活発であった。いずれも治療に直結したもので、フランス人好みで、ユニークで、本会にふさわしい内容ではなかったかと喜んでいる。

Goutallier教授は日本リウマチ・関節外科学会の特別講演で、肩胛板断裂に伴う回旋筋の脂肪変性が術後の筋力回復に及ぼす影響についての話しをされたが、著明なCT像とともにわが国ではなじみのないものであるので強い印象を与えたようである。本会の特別講演の肩胛板

断裂の手術的治療においてもこの点に言及され、早期手術のタイミングの問題とその効果について教わるころが大であった。Goutallier教授は脛骨高位骨切り術、膝の全関節置換術についてもフランスの第一人者で、現在活躍中の方であるので、今後会員諸兄と交誼をもつ機会のあることを期待している。

ついで行われた平成4年度日仏整形外科学会交換研修医の帰朝報告は、三人の方から、それぞれ個性的な、滞在中の研修ならびにフランス人との交流についての話しを聞かせてもらったが、例年にもまして興味の尽きないものがあった。短期間にこれ程の成果を挙げた各人の天分と力量に驚くとともに、これはまたフランス側の誠意とご尽力に負うところも大きいのではないかと考え、感謝の念を禁じ得ない。

日仏整形外科学会による青年整形外科医交換研修も回を重ねて、優秀な方々の日仏間の往来で、両国の交流の実績を挙げつつあるものと確信している。殊にわが国に迎え入れた私人研修医の方達の帰国報告から、高い満足、時には賛辞にさえ接することができるのは、小野村委員長のご努力はもとより、わが国の多くの受け入れ施設の関係各位のご支援、ご協力の賜で、ここにあらためて、心から御礼申し上げる次第である。

第5回日仏整形外科学会プログラム

1) 日時

1993年10月30日(午後5時から)
(第21回日本リウマチ・関節外科学会第2日目終了後)

2) 場所

千里ライフサイエンスセンタービル5階
サイエンスホール
大阪府豊中市新千里東町1丁目4番2号
(Tel. 06-873-2000)

3) 内容

- 1) 開会の辞 七川 歎次
2) 一般演題 司会 菅野卓郎

① Percutaneous Laser decompression for the herniated lumbar discs.

T. YONEZAWA*, T. ONOMURA*,
R. KOSAKA*, K. ICHIMURA*,
K. MATSUI**, I. KISHIMOTO*

* Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College

** Department of Orthopedic Surgery, Takatsuki Red Cross Hospital

- ② The results of combined Bankart-Bristow operation for recurrent dislocation of the shoulder.
G. YOSHIKAWA*, A. KAKIMOTO*,
S. HUKUDA*, M. MURAKAMI**,
M. HATA***

* Department of Orthopaedic Surgery, Shiga University of Medical Science

** Faculty of Orthopaedic Surgery, Minakuchi Shimin Hospital

*** Faculty of Orthopaedic Surgery, Daini-Okamoto General Hospital

- ③ Surgical treatment for dialysis related arthropathy in the shoulder.

E. SHIOTA, T. ARIZONO, Y. KUNISAKI
Department of Orthopaedic Surgery,
Yahata Saiseikai Hospital.

- ④ Does perforation of the triangular fibrous cartilage cause chronic wrist pain? — A MR Imaging study —

T. NAKAMURA*, E. NAKAMURA**, K. AHSOH**, T. HARA*, M. MOCHIHARA***, T. NOBUHARA***, Y. UEDA*

* Department of Orthopaedic Surgery, Kyushu Rosai Hospital

** Department of Orthopaedic Surgery, Oita Medical University

*** Department of Radiology, Oita Nakamura Hospital



学会会場

- 3) 特別講演 司会 阿部宗昭

「肩腱板断裂の手術的治療」

Prof. Daniel GOUTALLIER

(HOPITAL HENRI MONDOR)

(日整会教育研修講演1単位)

- 4) 帰朝報告

平成4年度日仏整形外科学会

青年整形外科医交換研修

.....星 忠行(弘前大学)

村上元庸(水口市民病院)

久保俊一(京都府立医科大学)

- 5) 総会

- 6) 閉会の辞

小野村 敏信

- 7) 懇親会 7時より

(千里ライフサイエンスセンタービル6階「プラザ展示場」にて)



GOUTALLIER教授による特別講演



懇親会

平成四年度日仏整形外科学会青年整形外科医 交換研修帰朝報告

【研修報告書】

弘前大学整形外科学教室
星 忠行

1992年9月から11月までの3か月間、日仏整形外科学会交換研修医としてFranceに滞在しました。膝関節外

科中心という私の希望もあり、研修地はLyon, Strasbourgでそれぞれ1か月、2か月間研修させていただきました。

LyonはCentre Hospitalier Lyon-Sudの中のPavillon 3Aの建物の中にあるClinique Chirurgicale Orthopedie et Traumatologiqueで研修しました。ここはH. Dejour教授を筆頭に、Prof. J. P. Carret(股関節), Dr. G. Walsh(肩関節), Dr. Ph. Neyretとおられ、更にAssistant Chefが3名、多数のInternaで構成されております。私の1週間の研修スケジュールは月、水がH. Dejour教授のconsultation, 火、木、金が主に膝の手術、月曜の夕

方からは術前、後カンファレンスに参加するというものでした。consultationではH. Dejour教授の歯切れの良い口調が印象的で、またTrillat教授時代からの例えば30～40年前の半月板切除後の経過例などを見せて頂き歴史を感じさせられました。手術の方は2～3の手術室を使い1日9～12例でほとんど膝の手術を行い、金曜は関節鏡手術4～5例をまとめて行っていました。内容としては人工関節、ACL再建、P-F手術、半月板損傷、骨切り術という順で、P-F手術が比較的多い印象をもちました。特に1つの概念の下に症例を着々と重ねている様子が、頂いたpaper, consultationなどから強く感じられました。

10月からのStrasbourgでは、郊外のIllkirch-GraffenstadenにあるCentre de Traumatologie et d'Orthopedieという外傷と整形外科専門のセンターで研修しました。ここはI. V. Kempf教授の下にそれぞれChiefのいる7つのServiceに分かれ、Kempf教授、Dr. Grosseなども1 ServiceのChiefとなっていました。StaffはInternaまで含め、各Service 4～6人で合計30～40人で構成されています。私はDr. G. Jennyの主に膝関節と感染症のグループに参加し、月、火、金が主に膝の手術、水が感染症の手術、木がDr. G. Jennyのconsultationというスケジュールでした。ここの施設はGrosse & Kempf intramedullary nail, y-nailで有名な整形外科外傷中心の施設で、私の滞在中もイギリス、ドイツ、インドなどからの見学者がありました。骨折を中心とした外傷患者が頻繁にセンターに運ばれ若い医師は日本の様に当直番などに忙しく動く回っておりました。また整形外科の症例も1日手術数20～30と多く、多数の症例を見ることができましたが、膝の手術に関してはServiceにより手術方法が様々で正直言って、私には少し惜しいような印象を受けました。


またStrasbourg滞在中の11月第2週には、第67回SOFcot meetingがParisで開催されましたので参加いたしました。Tubiana会長の下、軟骨移植、Carpal Instabilityがシンポジウムとして取り上げられ、セッションによっては英語へのtranslationがされておりました。夕方一般演題になると日本以上にどんどん時間が遅れていきましたが、余り帰る人もないようでした。

ところで実生活の面ですが、宿舎と食事について簡単に紹介したいと思います。宿舎は2施設共に敷地内のInternaの寮で、部屋は机、シングルベッド、室内灯、シャワー、トイレのみのsimpleなスタイルですので、勉強には最適ですが日本の生活になれている方は何かと購入する必要があるようです。食事は平日はほとんど病院内のレストランで取らせて頂きました。余談になりますがワイン、ビールも昼食時に置いてありましたが、普通医師は余りここでは飲まないと言っていました。

最後に、特にLyon滞在中C. Picault先生、

Grin夫人、Dr. Chassard(1992年8月まで日本に研修医として滞在)にはいろいろとお気遣いいただき、深く感謝いたしております。また今回このような貴重な研修の機会とご援助をいただきました日仏整形外科学会に対し、厚く御礼申し上げますと共に、今後微力ながら本会の発展、研修制度の発展に尽くしていく所存であります。ありがとうございました。

**CENTRE HOSPITALIER
LYON-SUD**
69310 PIERRE-BÉNITE


→ Consultez l'Annuaire Electronique
 CODE C.H.I.S.

PAVILLON 3 A
CLINIQUE CHIRURGICALE ORTHOPÉDIQUE
ET TRAUMATOLOGIQUE

Fax 72 39 34 85
Professeur H. DEJOUR
signe direct
Professeur J.P. CARRET
signe direct
Docteur G. WALCH
Praticien Hospitalier temps partiel
Docteur Ph. HEVRET
Praticien Hospitalier-Universitaire
Assistants-Chefs de Clinique
Docteur J.C. BEL
Docteur M. BOHNE
Docteur L. NOVÉ-JOSSERAND

Je soussigné Professeur H. DEJOUR, certifie que le
Docteur Tadayuki HOSHI, a effectué un stage dans mon service de
Chirurgie Orthopédique et Traumatologique du Centre Hospitalier LYON-SUD,
du 1er au 30 septembre 1992.

Ce stage a été réalisé dans le cadre des échanges de la
Société Franco-Japonaise d'Orthopédie.



Hôpitaux de Lyon
Pierre-Bénite le 30.9.92

UNIVERSITÉ LOUIS PASTEUR
FACULTÉ DE MÉDECINE
STRASBOURG

CHAIRE DE CHIRURGIE
ORTHOPÉDIQUE ET TRAUMATOLOGIQUE
PROFESSEUR I. KEMPF

CENTRE DE TRAUMATOLOGIE ET D'ORTHOPEDE
DE STRASBOURG
10, AVENUE BAUMANN
67400 ILLKIRCH-GRAFFENSTADEN
TEL. 88 67 33 33

Je soussigné certifie que le Docteur Tadayuki HOSHI a fait un stage
dans mon service du 5 octobre au 22 novembre 1992.

PROFESSEUR I. KEMPF

STRASBOURG, le 16 novembre 1992.L

【 ' 9 2 フランス留学報告記 】

水口市民病院 整形外科
村上元庸

1992年9月から3ヶ月間、日仏整形外科学会交歓留学生として、留学させていただきましたので、報告いたします。

はじめの2ヶ月間は、パリの北部に位置するピカルディ県アミアン市にあるHopital NORD(北病院)で臨床研修をさせていただきました。この病院は、ピカルディ大学の付属病院の一つで、4つある中で最も大きいものであります。

ここで私の面倒を見てくださったのが、COLLET(コレ)先生で、小児整形外科の専門医です。

ここでの主な一日の日程は、7時45分の朝の回診から

始まり、手術、外来、カンファランスがあり、通常は6時頃に終了するのですが、週に一度あるプライベート外来の日は深夜11時をまわる日もありました。

主に小児外科病棟で過ごし、内反足、脚延長術などの手術を一緒に手洗いし見せていただきました。それ以外にも時間があるときは、離れのビルにある成人の整形外科棟へ行き、VIVES教授の外来診察や、カンファランス、手術を、また放射線科にも行き、オリジナルのセメントを注入する脊椎形成術、他にリウマチ科にも見学に行く事ができました。

この大学病院の他にもコレー先生に同伴し、南病院、Laonの市立病院、私的病院や肢体不自由児の施設を見学させていただきました。

またChampagne地方のReims（ランス）市で開かれた学会にも連れて行っていただき、その後にシャンパン工場を興味深く見学させていただきました。

ある日、放射線科のGRUMBERG教授の主催で、放射線科、リウマチ科、整形外科で、肩の画像診断について合同ミーティングが開かれ、私は、腱板の超音波診断法について約30分講演をさせていただきました。

コレー先生には、公的な面だけでなく、いろんな面でたいへんお世話になりました。ご自宅に何度も誘っていただいたり、彼の御両親宅や兄弟の御家庭、多くの御友人宅を訪れ、食事をご馳走になりました。フランスの家庭というものを、よく見せていただきました。

他のDrたちも、とても友好的で、テニスやゴルフをしたり、Cafeやレストラン、ドライブに連れて行ってもらったりしました。

10月の終わりにアミアンを去るとき大学学長NEMITS先生と、副学長RISBURG先生に、あいさつをさせていただきました。

11月は、マルセイユでPOITOUT（ポアトゥ）教授のもとでお世話になりました。日本ではあまり見ることのできない、MASSIVE BONE ALLOGRAFTの手術を、見せていただくことができました。彼は、膝が専門で、特にこの同種骨移植では臨床だけでなく、基礎研究もされて、私では第一人者の一人で、本も何冊か書かれています。たいへん手術の上手な先生で無駄のない見事な手裁きが印象的でした。土日も出勤されておられました。帰りは彼のジャガーで駅まで送っていただきました。

11月11日から13日まで、パリで開かれた、SOFcotに出席しました。そこで日仏整形外科学会仏側の会長PICAULT（ピコー）先生に偶然お会いすることができ、Salvador DALIの美術館での懇親会に誘っていただきました。先生は顔が広く、ジュデー先生やA.Oのミューラー先生を紹介していただきました。

その後リヨンのピコー先生をお訪ねし、私的整形外科病院の見学や、肩で有名なWALCH先生を紹介していただきました。ピコー先生には、お仕事で多忙な中を、

駅やホテルまで送り迎えにきていただいたり、お宅に夕食に呼んでいただいたり、鹿のハンティングや、ボジョレーにある御実家へも連れて行っていただきました。身に余る光栄と感謝しております。

最後に、この留学の機会を与えてくださいました日仏整形外科学会七川欽次会長はじめ、幹事の先生方、お世話になった方々に心よりお礼申し上げます。

【交換研修を終えて】

京都府立医大 整形外科
久保 俊一

今回、サンテチエンヌ大学のブスケ教授のもとで約2ヵ月間研修することができましたのでその経験を報告します。

〔サンテチエンヌ〕

サンテチエンヌ市はリヨンから約50kmほど南に離れた標高800mの山岳地帯に位置する町でその歴史は12世紀にさかのぼります。ローマ帝国時代の遺跡があちこちにあるリヨンに比べると新しい町ですが、それでも石造りの建物からなる町並みは古い歴史を感じさせます。石炭が豊富に産出したことにより工業が盛え第2次世界大戦前はフランスの代表的な武器製造都市として有名でした。現在は人口20万でハイテクの町として生まれかわっています。ただ近年の経済不況のため閉鎖におこまれている工場も少なくないと聞きました。

〔研修先〕

サンテチエンヌ大学医学部の中核病院であるベルビュー病院の整形外科が研修先でした。サンテチエンヌ大学医学部はフランスで最も新しい医学部ですが、ベルビュー病院自体は300年近くの歴史を持ちリヨン大学の研修先でもあったところです。主任教授のブスケ先生もリヨン大学の故トリラー教授の御弟子さんです。

病院全体の病床数は約1,000あり、30以上のPavilionと呼ばれる独立した建物から成っています。整形外科はPavilion 5に位置し、一階は外来と放射線科、2階・3階には2カ所の手術室と病棟、4階には病棟、5階はStaff floorとなっていました。日本のような中央システムはなく、レントゲン技師・麻酔医などもすべて整形外科専任であり、仕事が非常にスムーズに運ぶのはうらやましい限りでした。しかし、職員の給与は低いようで今後人件費が上昇すればいろいろ問題がでてくるようです。

〔宿舎と言葉〕

宿舎は病院内にあるレジデント用の寄宿舎で室には机とベッドがあるのみで、トイレとシャワーは共同でした。

食事は別の建物にある食堂に早朝から夜11時まで用意されていました。当初生活環境のあまりの変化に体調をくずしかけましたが、時差ボケの解消とともにその生活にも慣れ、朝は6時起床、夜は10時就寝というまことに規則正しい生活を送れるようになり、むこうの先生からはまるでmonkのようだと冷やかされていました。というのはフランスでは夕食は8～9時から始めて2～3時間かけるのが普通だからです。

サンテチエンヌの人々は病院の内外を問わずみんな親切でしたが、言葉では非常に苦労しました。フランス語は出発前に少し練習していったのですが、まったく歯が立たず英語でcommunicationを取ろうと努力しました。しかし、英語が通じないのは予想以上で、まったくしゃべれない人が多く、英語を使える人をさがしながら情報を得るのは手間がかかりました。

〔手術〕

仕事の主体は手術室で、火曜から金曜まで朝8時から夕方まで手術がありました。1週間に外傷も含めて60例近くの症例があり、ひとつのルームで3～4例のスケジュールが組まれています。ブスケ教授は関節外科で高名なため慢性疾患の大半は股関節か膝関節が占めていました。comedicalを含めての手際よさには見るべきものがあり、THRなどは1～1.5時間で終了してしまいます。手術手技としてはnon touch operationが特徴的で、術中手術野に一際手を触れず操作するため最後まで手袋が血に汚れず白かったのが印象的でした。

ブスケ教授の考案した人工股関節（写真）は非常にユニークで大腿骨側コンポーネントはねじこみ式で初期固定が非常によいため、セメント型と同様の後療法をとっていましたが、実際には執刀させてもらえる機会がありました。手ごたえは充分でした。しかし、このimplantには抜去性とstress shieldingに問題があるようです。

〔外 来〕

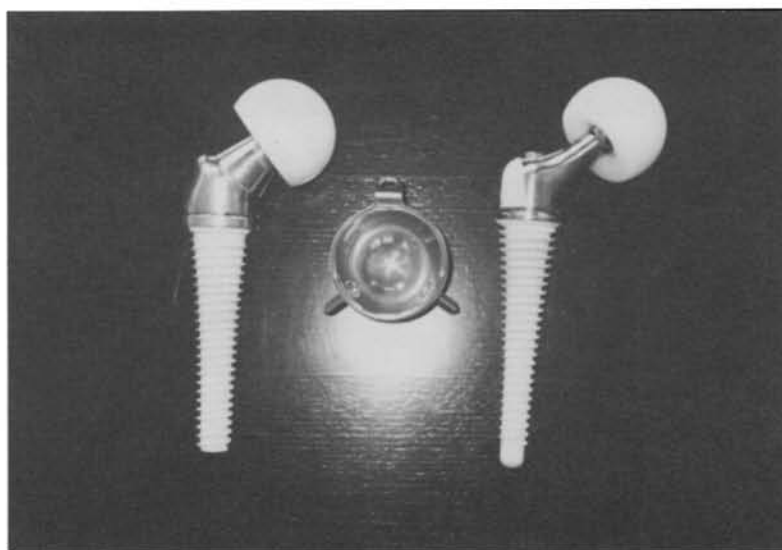
月曜日は教授回診とそのあとに続く教授外来の日で、外来はすべて予約制となっていました。患者さんはほとんど紹介で1人10～15分をかけて30～40人ほど診察するため、終了するのはいつも夕方その間空腹を我慢するのに苦労しました。また患者さんの中に少なからずイタリア人がいましたが、これは両国の保険制度の違いによるとのことです。

〔サンジョセフ病院〕

帰国前にリヨン市内にあるサンジョセフ病院のカトン先生のもとで約1週間研修しました。カトン先生のバカンスの都合などで短期間となってしまいましたが、朝8

時から夜8～9時まで休みなく手術、外来をこなすスケジュールはハードなものでした。ここでもnon touch operationの手術手技が採り入れられていましたが、人工股関節はチャンレー型を改良して用いていました。フランスではいろいろな施設がそれぞれ独自の人工関節を開発しているようです。

またカトン先生はフランスの脚延長学会の会長をされており、髄内式の脚延長器の臨床応用されているのが目につきました。



ブスケ教授のhip implant
大腿骨側コンポーネントはねじこみ式である。

〔総 括〕

ふりかえってみて、フランス語ができなためとまどいやいやな思いをしたことも少なからずありましたが、サンテチエンヌ、リヨンの人々の余裕のある暮らしぶりやhospitalityに接し、フランスはよい国だという印象を持って帰ってくるのができました。今後この経験を日本における臨床と研究に役立てたいと思います。

最後にこの貴重な機会をお与えいただいた日仏整形外科学会の各先生方に深謝し、筆をおかせていただきます。

平成五年度日仏整形外科学会交換研修医

小 浦 宏 昭和29年9月14日生
勤務先：岡山大学医学部付属病院 整形外科

昨年秋に3ヵ月間Lyonへ行かれ、Clinique Mutualiste (Dr. CARTILLIER) 他で研修されました。

AFJOの在仏公式連絡員ジラン夫人の近況



Mme. Girin (ジラン) 敬子氏 : AFJO (日仏整形外科協議会) のフランス事務局 (Lyon) に於いて交換留学生のお世話役等をしていただいております。

ご主人 Mr. Bernard (ベルナル氏)

CREDIT NATIONAL (銀行) 勤務

長女 Melle. Muriel (ミュリエル) 久美子さん (17才)

長男 Mr. Alexis (アレクシー) 友衛さん (15才)

次女 Melle. Pascale (パスカル) 真理子さん (14才)

と共に1992年夏 義父誕生日昼食会時に FONTAINE SUR SAONE のレストランに於いて写した日仏家族スナップです。

平成4年度会計報告

歳入の部

前年度繰越金	1,827,270円
年会費 (70名)	210,000円
91年度分 5名	
92年度分 62名	
新入会 3名	
賛助会費 (12社)	2,300,000円
賛助金 (7社)	1,000,000円
広告料 (21社)	1,010,000円
預金利息	13,725円
雑収入	950円

◇歳入合計 6,361,945円

歳出の部

日本人交換研修補助費	901,030円
仏人交換研修滞在補助	705,000円
通信費	173,211円
事務費	92,922円
旅費・交通費	54,299円
会議費	8,219円
印刷費	1,162,375円
人件費	5,000円
雑費	169,051円
次年度繰越金	3,090,838円

◇歳出合計 6,361,945円

平成5年度事業費予算編成

歳入の部

年会費 (70名)	210,000円
賛助会費	
医療関連企業	1,500,000円
一般企業	1,400,000円
賛助金	
医療関連企業	800,000円
一般企業	500,000円
広告料	500,000円
前年度繰越金	3,090,838円

◇歳入合計 8,000,838円

歳出の部

日本人交換研修補助費	
渡航費 + 滞在費の一部 300,000 × 2	600,000円
仏人交換研修滞在補助費	
滞在費, 交通費 (3ヵ月) 150,000 × 2人 × 3	900,000円
第5回日仏整形外科学会開催費	
仏人招待費 (交通費, 宿泊費等)	2,000,000円
会場費, 運営費等	1,000,000円
日仏共同研究助成費	300,000円
事務局費	1,000,000円

(通信, 会合, 人件, 印刷費)

予備費	200,000円
次年度繰越金	2,000,838円

◇歳出合計 8,000,838円

フランス人青年整形外科医の交換研修受入れのお願い

本年度も日仏整形外科学会とフランス整形外科学会(SOFCOT)との間の青年整形外科医の交換研修を実施いたします。現在までに日本側では30数カ所の施設で受け入れ承諾して頂いておりますが、来年度以降さらに日本側の受入れ体制を充実しフランス側に提示したいと考えております。受け入れ期間は原則として3カ月ですが、1カ月でも2カ月でも結構ですので是非会員の先生方のおられる施設で、フランス整形外科医の研修希望を受け入れて戴きたくお願い申し上げます。

来日するフランス人医師は、英語を話すことが条件になっております。また日仏間の旅費はSOFCOTが支給し、日本での滞在費(宿泊費、旅費)は、日本側(原則として受入れ施設)が負担することになっております。受け入れを承諾していただける場合は、事務局まで御連絡下さい。現在までに受け入れを御承諾いただいた施設は変更がないようでしたら、あらためて承諾書をお書きいただく必要はありません。

また日本から派遣する医師の募集を行っております。お心当たりの先生がおられましたらご推薦頂きたく存じます。

第3回日仏整形外科合同会議(3° AFJO)のお知らせ

本年は第3回の日仏整形外科合同会議(AFJO)がパリで開催されます。フランス整形外科学会(SOFCOT)の前日で、多くの著名なフランスの整形外科医が参加される予定です。また学会終了後にはディナーパーティーが催されます。奥様やご家族のためのオプションツアーも計画しております。是非、ご同伴でご参加下さい。

日時: 1994年11月7日(月)

場所: Palais des Congres, Paris

(SOFCOTが8日~12日の間、同じ会場で開催されます。)

なお小林 晶先生(福岡整形外科病院)がツアーを計画されています。詳細は近々JTBよりお送りする予定です。

編集後記

本号より発行のお手伝いをさせていただくことになった。日頃受け取ってばかりいる者がいざ手を出すとなると慣れないことが多く、これまで編集、発行のお世話をされていた大阪医科大学整形外科の先生方に敬服するばかりである。十分な紙面になったとはいえ心残りもあるが、今後少しでも紙面を充実させていくよう努力していくつもりである。

本年はパリで第3回日仏整形外科合同会議が開かれる。パリと聞いて心うきうきするのは自分だけだろうか。パリの灯の下、日仏両国会員の親睦の交わされる日が早くくることを切望する。

係 大橋 弘 嗣(大阪市立大学医学部整形外科)

監 修 七 川 歆 次
発行責任者 山 野 慶 樹
発 行 所 大阪市立大学医学部
整形外科教室
大阪市阿倍野区旭町1-5-7
Tel (06) 645-2161
Fax (06) 646-6260

事務局 大阪医科大学
整形外科学教室内
Tel (0726) 82-1221 代表
(内) 2364
学会専用 Fax (0726) 82-8003